

平成25年度

教科・科目名 科学年系コース	航空機操縦一般 航空科2年パイロットステージ	授業時間数/週	3時間
授業の目標	航空留学における操縦基本知識の習得		
授業内容の方法	操縦主要五科目(航空気象、航空工学、航空法規、航空通信、空中航法)の中から適時必要科目について選択し授業を行う		
評価方法について	試験80点(学期末試験) 評点20点		
使用テキスト 教科書 副教材	◎購入テキスト ・PRIVATE PILOT MANUAL (JEPPESEN社 出版) ・AIM-JAPAN (日本航空機操縦士協会 出版) ◎参考テキスト ・飛行機操縦教本 (航空振興財団 出版) ・学科試験スタディガイド (日本航空機操縦士協会 出版) ・ANA AVIATION WEATHER (全日本空輸 出版) 他		
年間授業計画	前期 4月 航空気象(天気概要) 5月 航空気象(天気予報) 6月 航空気象(航空気象概要) 7月 航空工学(航空力学) 9月 航空工学(航空計器取扱)	後期 9月 航空通信(通信概論) 10月 航空通信(航空情報) 11月 空中航法(航法概論) 12月 空中航法(人間の能力の限界) 1月 航空法規(航空法概要) 2月 学科試験対策 3月 学科試験対策	

平成25年度 航空機操縦一般 航空科 2年 パイロットステージ 年間学習計画

学期 月 配当時間	単元 項目 学習内容	学習のねらい ポイント	学習活動 (評価方法)
前期 4月 配当時間 8時間	・学習導入及びオリエンテーション ・航空気象 (天気概要)	・航空機操縦一般の学習目的を説明 ・来年次渡米に向けた基礎教育を重視 ・航空気象(天気概要) 気象知識に必要な基礎知識の習得させる。	・使用教材、ノートの取り方の説明 ・基本的な気象用語について理解する。
5月 配当時間 10時間	・航空気象 (天気予報)	・航空気象(天気予報) 天気図、気象データを持ち入り簡単な概況及び予報が出来るよう理解させる。	・天気図他得られる情報から現在の天気概要及び今後の予想について概ね理解する。
6月 配当時間 12時間	・航空気象 (航空気象概要)	・航空気象(航空気象概要) 高層天気図、METAR・TAFなどを持ち入りフライトに対するブリーフィングが出来るよう理解させる。	・模範的に飛行計画を策定し、飛行に必要な気象情報を入手させ、プレゼンテーションが概ね出来るようにする。 (ノート提出)
7月 配当時間 10時間	・航空工学 (航空力学)	・航空工学(航空力学) 空力、構造、装備の科目から必要な知識を取得させる。	・航空機の飛行特性を理解し、操縦に必要な装備・装置を理解する。 (前期試験)
9月 配当時間 8時間	・航空工学 (航空計器取り扱い)	・航空工学(航空計器) 計器種類及び構造について取得させる。	・飛行中の計器の動きを理解し、必要に応じた使用方法を理解する。 (ノート提出)
後期 10月 配当時間 10時間	・航空通信 (通信概論・航空情報)	・航空通信(通信概論) 通信用語、管制機関との通信要領について習得をさせる。 ・航空通信(航空情報) AIP、NOTAM、航空情報サーキュラーの関係性について理解させる。	・通信用語(欧文通話法、一般用語)を使用して実際に則した通信要領が概ね出来るようにする。 ・航空情報を確認し自分に必要なものを選び情報を得られるようにする。
11月 配当時間 12時間	・空中航法 (航法概論)	・空中航法(航法概論) 航空図、航法計画等の基本知識を習得させる。	・航法の3作業から始まり、実際の航法計画に必要な作業が概ね出来るようにする。
12月 配当時間 10時間	・空中航法 (人間の能力について)	・空中航法(人間の能力) 飛行に起因する疾患の知識、ヒューマンエラーなどについて理解させる。	・発生する恐れのある疾患とその予防について理解する。また人間の能力の限界を認識し、失敗を生かした考え方を育成する。 (ノート提出)
1月 配当時間 10時間	・航空法規 (航空法概要)	・航空法規(航空法概要) 航空法、法施行規則等操縦士に必要な基本的知識を習得させる。	・正しい知識を得ることで、遵法精神と判断力を理解する。
2月 配当時間 10時間	・航空従事者学科試験対策	・3月期航空従事者学科試験受験に向け、過去問題を中心に対策を行う。	・学科試験合格を目指し、過去問題と解答と復習を繰り返し行う。 (ノート提出)
3月 配当時間 5時間	・航空従事者学科試験対策	・3月期航空従事者学科試験受験に向け、過去問題を中心に対策を行う。	・学科試験合格を目指し、過去問題と解答と復習を繰り返し行う。 (後期末試験)